

【エクアドル内政・外交：2012年4月】

1. 概要

- 4月 2日 外務副大臣の離任
- 2日 米州サミット不参加を表明
- 9日 サラサル外務省貿易投資担当次官代行の訪日
- 23日 閣僚交替
- 27日 米国上院は駐エクアドル米国大使にアダム・ナン氏を任命

2. 内政

(1) 閣僚交替

23日、コリア大統領は大統領令第1151号を以て、閣僚交替を行った。
社会開発調整大臣 (旧)ドリス・ソリス・カリオンから(新)リチャード・エスピノサ。
知識・人的能力調整大臣 (旧)イバン・ナランホから(新)アウグスト・ハビエル・エスピノサ。
国防大臣 (旧)ハビエル・ポンセから(新)ミゲル・カルバハル。
労働関係大臣 (旧)リチャード・エスピノサから(新)ホセ・フランシスコ・バカス。
農牧水産漁業大臣 (旧)サンティアゴ・レオンから(新)ハビエル・ポンセ。
経済社会参画大臣 (旧)ヒメナ・ポンセ・レオンから(新)ドリス・ソリス・カリオン

(2) 外務副大臣の辞任

2日、約2年に亘って職務にあたったキント・ルーカス(Kintto Lucas)外務副大臣の辞任を発表した。パティーニョ大臣は今般辞任を一身上の都合として、「外務省での彼の働きに大変感謝している。非常に尊敬する人物であり、良き友であり、仲間である」旨述べた。

(3) 外交行囊不正使用問題

23日、エクアドル外務省発在ミラノ・エクアドル総宛の外交行囊にコカインが発見された件につき、野党議員が国会の監査・政治監督委員会に対しパティーニョ外相の政治責任を追求する動議を提出していたが、政治監督委員会は6票の賛成票によりパティーニョ外相の責任追求を開始しないことを決定した。

3. 外交

(1) 対日関係:

9～12日、サラサル(Patricio Salazar)外務省貿易投資担当次官代行は訪日し、カリオン(Leonardo Carrion)駐日エクアドル大使、ヒメネス(Paulina Jimenez)在京エクアドル大商務官は日本・エクアドル両国の通商関係促進に向けた種々活動を行った。

サラサル次官代行は戸谷文聡・経済産業省通商政策局通商戦略担当審議官、(社)日本経済団体連合会の讃井暢子・常務理事等と会談を実施した。

(2) 対米関係

27日、米国上院は駐エクアドル米国大使にアダム・ナン(Adam Namm)公使参事官の任命を全会一致で承認した。セリ(Nathalie Cely)駐米エクアドル大使は、今般発表に祝意を示し、「ナン新大使のエクアドル着任により、二国間協議が推進されよう」旨述べた。

(3) 米州サミット不参加表明

2日、コリア大統領は口上書を以てサントス・コロンビア大統領に、4月14～15日にコロンビア・カルタヘナで開催される米州サミットには出席しない旨を伝えた。

コリア大統領は「エクアドル大統領を務める限り、我々が求める“偉大な祖国”といえる措置が執られるまで、米州サミットに出席することは決してないことを決めた」旨述べた。

また同大統領は、世界各国が一致して拒絶すべき非人道的な対キューバ制裁措置やマルビーナス諸島での常軌を逸した植民地化といった重要テーマから米州機構は目をそらし受け容れることは出来ないと強調した。

(4) 国内オリンピック委員会連合によるエクアドル政府非難決議

15日、モスクワ(露)で行われた国内オリンピック委員会連合(ANOC)総会に於いて、セバージョス(Francisco Cevallos)エクアドル・スポーツ大臣によって承認された措置についてエクアドル政府を非難する決議が可決された。

国際オリンピック委員会(IOC)の説明によると、エクアドルは今般措置を以て国内の各種スポーツ協会の全幹部を更迭し、政府による規範や監査のもと会長などの幹部を一新しようとしているとして、ロゲ(Jacques Rogge)国際オリンピック委員会(IOC)会長は今般措置に対する懸念を示すべくコリア・エクアドル大統領宛に書簡を送る予定である。今般措置を取り消さぬ場合には、エクアドルに対し資格停止処分を講じる可能性があるとし、国内オリンピック委員会連合(ANOC)は各国オリンピック委員会に対しエクアドル政府による国内各種スポーツ協会への介入に警戒するよう要請した。